

平成29年度

## 研究集録

研究テーマ 幼思の興味・関心を広げ、充実した生活や遊びの実現を目指して

～計画的な継続視聴を通して～



上尾市立平方幼稚園

# 〈2年保育4歳児〉 テーマ 生活習慣を身につけるために

時期	教材名	作者	教師の思い	幼児の様子
4月下旬	〈絵本〉 おべんとう なあに？	山脇 恭	<ul style="list-style-type: none"> <li>お弁当開始を前に、お弁当が始まることに期待がもてるようにと読み聞かせを行なった。偏食の幼児が多いので、自分のお弁当への楽しみと食への興味の広がりになるきっかけになってほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分のお弁当に何が入っているか、一緒の物が入っているかなど興味をもち、教師に知らせたり、聞いたたりする姿が見られた。</li> </ul>
5月中旬	〈絵本〉 がんばれ はぶらしハーマン	木村 裕一	<ul style="list-style-type: none"> <li>1日保育にも慣れ、歯磨き指導を始めるときに、歯磨きの大切さ、歯磨きへの興味をもってもらえるようにと考え、読み聞かせを行なった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>歯磨きをしながら「ハーマン！」と呼んだり、「こうやって磨くんだよ」と思い出しながら磨いたりする姿が見られる。</li> <li>絵本をととも気に入り、「これ読んで」ともってきて繰り返し楽しんでいる。</li> </ul>
5月下旬	〈絵本〉 ナンタン ぶらんこのせて	キヨノ サチコ	<ul style="list-style-type: none"> <li>戸外遊びが増えてきて、順番を守ったり、友達が使っているものを「貸して」などのやりとりができるようになって欲しいと考え、幼児が親しみやすいナンタンの絵本を選んで読み聞かせた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>絵本を知っている幼児が多く、一緒に「ナンタン プランコのせて！」と声に出して楽しんでいた。</li> <li>友達が使っているときに「貸して」と伝えることを使いたい友達がいる時には順番に使うということは理解している幼児が多かったが、実際に遊び始めるとなかなか交代や順番に使うというだけではできない。</li> </ul>
6月下旬	〈絵本〉 おともだちになつてね	岡本 一郎	<ul style="list-style-type: none"> <li>友達への興味が出てきた幼児が増え、同じ場で遊ぶ中でやりとりをしたり、友達をしていることに興味をもったりする姿が見られるようになってきたため、絵本でも取り入れた。友達存在やかかわりのきっかけになってほしいと考えた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「みんなと一緒に食べるとおいしいよね」「くまさん優しいね」など一人よりもみんなと一緒に楽しんでいるという気持ちをもった幼児がいた。</li> <li>友達を意識するようになり「優しくあげよう」という意識や思いが感じられるようになった。</li> </ul>
10月上旬	〈絵本〉 ななちゃんのおかたづけ	つがね ちかこ	<ul style="list-style-type: none"> <li>園生活や遊びに慣れ、遊びが活発になってきたが、片付けが難しい加減になっている様子があり、「綺麗に片付けようね」などの言葉掛けよりも視覚的に知らせていくことが効果的ではないかと考え、取り入れた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>片付けをしているときに、場所や片付け方を無視してしまう幼児に対し、「おもちゃが出てきちゃうよ」「ここじゃないって怒るんじゃない？」など絵本を利用して友達に問いかける姿が見られる。一人ひとりが少し片付けに対して意識をするようになってきている。</li> </ul>
10月下旬	〈絵本〉 くれよんのくろくん	なかや みわ	<ul style="list-style-type: none"> <li>友達に対する意識の高まりとともに、「何で〇〇ちゃんはお口できないの？」「お話できないのは赤ちゃんなの？」などの疑問が聞かれるようになってきたり、「一人ひとり違う」ということ、互いを認め合えるようになって欲しいと思い、選んだ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「くろくんすていね」と感心すると同時に、くろくんが画用紙を真っ黒にした引っかけ絵に興味をもち、自由画で繰り返し楽しんでいた。</li> <li>「互いを認める」ということは難しくかったようだが、クレヨンの黒を通して、新たな魅力を発見するという経験ができた。</li> </ul>



時期	教材名	作者	教師の思い	幼児の様子
12月上旬	<絵本> きもち	谷川 俊太郎	・友達とのかかわりが深まっている中で、自分の思いが優先になってしまいトラブルになったり、相手の気持ちを考えられず傷つけてしまったりすることが多い。絵を見て様々な気持ちを一緒に考える中で、自分と友達の気持ちの違いに気付いて欲しい。	・1ページ1ページ進めるたびに幼児がそれぞれイメージをしながらどう感じるかを考えていた。自分の気持ち、友達が感じる気持ち、話をしたり聞いたりする中で互いに「それもある」「そうだね」と気付いたり共感したりしていた。
1月下旬	<絵本> うそ	中川 ひろたか	・「うそ」って悪いことばかりなのかなということを考えてきかけとして、「うそ」ってどんな時につくのかを一緒に考えるきっかけにしたいと考えた。	・少し難しかったようだったが、「じゃあ、OOはいいうそ?」「OOはどうなんだろう?」と考えたり、友達がうそをついた時に「今は悪いうそだ!」と話したりする様子が見られた。
2月中旬	<絵本> ないた	中川 ひろたか	・「泣く」のはどんなときなんだろうということを経本を通して一緒に考えてみようと思ひ、読み聞かせをした。	・「ママも嬉しい時泣くよ!」先生も! など身近な人の悲しい涙だけでなく、嬉しい涙を思い出したり、泣く時は悲しいときだけじゃないんだと改めて感じたりしている様子があった。
3月上旬	<絵本> おおきくなるっというこは	中川 ひろたか	・年長組になる前に一年間を振り返る気持ちを込めて、自分の成長、また新たに入園する年少組のお兄さん・お姉さんになるという気持ちをもてるようにと読み聞かせをした。	・靴や洋服などが小さくなったこと、歯が生え変わったことのように自分の体のことを振り返ったり「年少さんに優しくないよ」「色々教えてあげるんだ」など年長組への意欲につなげたりした。 「おおきくなるといいことば」といって繰り返して幼児に心地いい響きだったようで、幼児も繰り返し言葉にしていた。

### <園内研究を通して>

- ・1年間、どの時期にどのような絵本を読み聞かせることが効果的であるかを改めて考えることができました。今回は、生活習慣をテーマとして、幼児の実態やクラスの様子を見ながら教材を探していくことの難しさ、テーマに沿ってはいても内容が難しいなど今まで以上に事前に自分自身が絵本と向き合い、選んでいくことができました。教師の思いがあっても選んだ絵本ではあっても、読み聞かせてみると幼児には教師の思いとは違う感じ取り方があることも改めて感じ、教材選びや伝えることの難しさも実感しました。
- 4歳児の読み聞かせでお話を楽しむことではなく何かを伝えたい時には、話が簡潔で、繰り返し同じ言葉が出てきたり、短い文章で一緒に考えたりするものの方が心に響きやすかったり、幼児の印象に残ったりすることを感じたので、今後の絵本選びに生かしていきたいと思ひます。



# テーマ 幼児の食に対する興味や関心を深めていくために

## <2年保育5歳児>

時期	教材名	作者	教師の思い	幼児の様子
4月中旬	【絵本】 おべんとうばこのうた	ひさかたチャイルド さいとうしのぶ 構成・絵	・園生活の中で、お弁当の時間を楽しみにしている 幼児が多い。食事をする事に対してさらに関心 が高まるよう、新年度のお弁当開始に合わせて 読み聞かせを行った。	・絵本の文章が歌「おべんとうばこのうた」であることに気付 き、友達と頭を見合わせながら喜んで、口ずさみながら 絵本を見たりしていた。 ・お弁当の時間にも本の内容を思い出した様子で、自分の お弁当に入っているおかずを歌のフレーズに合わせなが ら嬉しそうに歌っている幼児もいた。
7月上旬	【絵本】 パパ・カレー	ほるぷ出版 武田美穂	・7月の「カレーパーティー」に向けて興味・関心を もってほしいと考え読み読み聞かせを行った。カ レーパーティーでは調理体験が予定されていた ので、カレーが出来上がるまでの工程が具体的 に描かれている絵本を選ぶことにした。	・絵が大きく、言葉が少ないのがこの絵本の特徴である。 幼児が絵を見て自ら気付いたことを言葉にしたり、「僕も おうちでジャガイモ切ったことある」と経験を思い出したり する姿が見られた。 ・中にはカレーが出来上がるまでの工程をじっくりと見たの は初めてだった幼児もあり、「こうやってつくるんだね!」 「おいしそう」と興味をもち、「明日(カレーパーティー当日) も同じ材料でつくるの?」「早くお料理したいな」と行事に 期待をもっている様子がうかがえた。
11月下旬	【絵本】 かさとしのたべものえほん1 ごはんですよ おもちですよ	農山漁村文化協会 加古里子・文 中沢正人・絵	・12月に行われる「もちつき」に向けてこの絵本を 取り上げた。単につくられたもの・出来上がった ものを食べるのではなく、料理に使われている食 材がどのようなようにしてつくれるか、食卓に届くのかを知 るきっかけにしたかった。	・「もちつき」の行事に向けて話をすることで、「もちは何からで きているの?」「という教師からの問いに、ほとんどの幼児が 「お米(もち米)」と答えたり、「お米はどうやってつくるの?」 という問いには戸惑ったり、「分らない」と答える幼児が多 かった。一粒の米から数百の米ができることや、できた米も そのままではなく飯をむいて(精米)食べること等を知ると、 「すごい!」「いっぱい食べたいね!」「そうなんだ」と驚いた表情で話 を聞いていた。 ・その後のお弁当の時間では「このおにぎりは何粒入ってい るのかな?」「おもちは何粒くらい(米粒が)入っているのか な?」「と「米」という食材に興味をもっている会話が聞かれた。
通年	【ポスター】 えいようまんてんポスター	ベネッセコーポレーション こどもやれんじ 幼児のまなび応援団	・日常的に幼児の目が届きやすい保育室(ままご とコーナー)に年間を通して掲示しておき、食材 や料理に関心をもつきっかけにした。	・はじめは特に気にする様子は無かったが、徐々にままご とコーナーにある食べ物と同じものを見つけて「ピーマンあ った!」「目玉焼きもあるね」と照らし合わせながらポスターに 目を向ける幼児が増えていった。 ・エプロンシアターや絵本を通して食べ物(赤・黄・緑) について知ると、お弁当を食べながら「おにぎりは黄色だ ね!」「ハンバーグは何色(のはたらき)だろ?」「今日は緑が 少ないな」と栄養に注目しながらポスターを見ている幼児 も多くなっていった。
1月中旬	【エプロンシアター】 中谷真弓先生の 食べものいっぱいエプロンシアター	学研 中谷真弓	・これまで行事に合わせて食育指導を行うことが 多かったが、一方で偏食がちな幼児が多いこと もクラスの問題であった。そこで食べ物の働き について気付かせ、バランスよく食べることの 大切さを知らせたいと思い、エプロンシアターを 行った。	・絵本とは違う教材ということもあり、幼児の関心がとても高 く感じられた。 ・初めは食べ物の働き「赤・黄・緑」について理解が難しい幼 児もいたが、「ご飯を食べると元気が出る」「牛乳を飲むと 骨が強くなる」「野菜を食べると体がきれいになる」といった 日常生活で耳にしたことを重ねながら少しずつ理解を深め ている様子だった。 ・幼児には「バランスよく食べる」ということを言葉だけではな く、視覚的教材も用いて知らせていくことが有効的だと感じ た。



時期	教材名	作者	教師の思い	幼児の様子
1月下旬	【絵本】 げんきをつくる食育えほん1 たべのだいすき！ みんなげんき	金の星社 吉田 隆子・作 せべ まさゆき・絵	・エプロンシアターをきっかけに食べ物に興味が高まった。「バナナは何色の食べ物について関心が高まった。「バナナはお肉からできているから赤の食べ物だね！」と幼児自ら食べ物に興味をもって考えたり、調べたりしている姿も見られた。 ・そこで、「赤」「黄」「緑」の食べ物について深く掘り下げ、さらに関心を深めていくことにした。これまでは一冊ものの教材を扱うことが多かったが、今回は5冊シリーズの教材を扱うことで、興味や関心が持続していくことをねらった。 ・このシリーズは食材に関して、生産される様子、さまざまな調理方法、栄養など、多岐にわたって描かれている。あらゆる視点から幅広く食材を見つめたいと思ひ、取り上げることとした。 ・また、はつきりとした絵の色づかいや分かりやすい言葉で描かれているので、教師が読み聞かせをするだけでなく、幼児だけでも繰り返し読むことができるのは魅力的だった。	・第一巻は主に食べ物が入って消化される様子が描かれていた。「バナナうんち(健康な排便)をするにはバナナスよく食べることが必要」ということを伝えていた。はじめは「うんち」の響きに笑いが起こっていたが、食事と排便に深い関係があることを理解し始めると、「たまにベチャベチャうんちが出る時もあるよね」「野菜を食べるといいってママが言っていたけど、それその経験が語り始める姿もあり、体や食について関心をもっている様子が始まってきた。 ・第二巻から第四巻まではこれまでも多く触れてきた「赤」「黄」「緑」の栄養について、より深く知るきっかけとなった。「赤」の栄養については「体のもとになる食べ物」ということを伝え、「筋肉になるよね」「牛乳は骨の基なんだよ」と多くの幼児が話していた。また、肉が食卓に届くまでを描いた場面では「僕たちが食べるために牛さんとか豚さんが死んでくれるんだよね」とつぶやいている幼児の姿は印象的だった。普段は当たり前のように食べているものも、改めて考えてみるとそうではないことも多く、幼児がどこまで深く考えているのかはわからないが、「生活を振り返る」という点ではよい機会になったと思う。 「緑」の栄養については、「緑＝野菜」というイメージが幼児の中でも強く、印象に残った様子だった。驚いたのは偏食気味の幼児が絵本を見た後のお弁当の時間に「緑の食べ物が入ってる」「(緑の食べ物も)食べないと赤と黄色の食べ物だけになっちゃうやう」などと食べ物について意識を持ち始めていたことだった。エプロンシアターに引き続き、視覚的教材の効果を感じることができた。 「黄」や「白」の食べ物についても、いろいろな栄養や働きがあることを知り、興味深く読み聞かせを聞く姿があった。 ・当初のねらい通り、シリーズの絵本だったので「次は何色の食べ物の話？」「明日も読んでね！」と興味が持続し、食べ物への関心が高まっていた。
2月上旬	【絵本】 げんきをつくる食育えほん2 じょうぶなからだをつくるたべもの あかのえいようのなかまたち	金の星社 吉田 隆子・作 せべ まさゆき・絵		
2月上旬	【絵本】 げんきをつくる食育えほん3 びょうきからまもってくれるたべもの みどりのえいようのなかまたち	金の星社 吉田 隆子・作 せべ まさゆき・絵		
2月上旬	【絵本】 げんきをつくる食育えほん4 つよいちからがでるたべもの きいろのえいようのなかまたち	金の星社 吉田 隆子・作 せべ まさゆき・絵		
2月上旬	【絵本】 げんきをつくる食育えほん5 おいしいあじのおてつだい しろのえいようのなかまたち	金の星社 吉田 隆子・作 せべ まさゆき・絵		

<園内研究を通して>

- ・教材を提供するごとに幼児の食べ物に対する興味がわき、知っていることや考えたことを自分なりに話す幼児も出てきた。いろいろな角度から食について触れたことで、より関心が高まったように思う。
- ・これまでは時期を考慮しながら読んでいたこと多かった。今回の課題研究を通して、新しい教材に出会うことができたと共に、絵本だけでなくエプロンシアターやポスターも幼児にとって効果的な教材であることが分かった。
- ・副題にある「計画的な継続」という部分が想像していた以上に難しいことだった。幼児に教材を提供する前に、教師自身がテーマに対して意識を高くもち、課題やテーマにそった教材を探していくことが必要である。「なんとなく日々が過ぎてしまわぬよう、計画的に今後も保育を進めていきたい。